

木野通信

K I N O S E I K A P R E S S
K Y O T O U N I V E R S I T Y

京都精華大学

木野通信 特別号 2002年4月1日発行

京都精華大学入試課

〒606-8588

京都市左京区岩倉木野町137

TEL 075-702-5100

<http://www.kyoto-seika.ac.jp>

どの大学を選ぶべきか。全国800を超える大学のなかからたった1つの大学を、自分の愛すべきアルマメーター「母校」として選択することはむづかしい問題である。しかし諸君はいまその決断を迫られている。

大学は学問と教育と深い友情とを産み出す場所である。学生の精神を凍りつかせるような官僚主義的な環境の大学では、友情を培うことはできない。学生を群衆のなかの1人としてしか扱うことのできない日大大学においては、学生の孤独からの脱出はきわめて困難である。そして学問的にまた人間的に魅力のない教授による教育は、無意味である。われわれの大学は新しい画布のように、一切の因襲的な過去から断絶している。そして教師も学生もすべて、まず人間として尊重され、自由と自治の精神の波うつ新しい大学を、これから創造していこうとしているのである。

われわれの大学は、現在、可能なかぎり最高の質の教員と職員とを集め得た。幸運といわなければならない。そしてその間に、友愛の心を深めることにも成功した。われわれは、この結束力をもって諸君の教育に当たるすでに形骸に化した学問の自由と大学の自治を回復し、教職員と学生がともに人間として尊重され、その人間的自由と自治の拡大が図られる大学を、われわれは目指している。

この大学の理念のもとに、今日の「失われた大学教育」を、京都の地において回復することに、われわれは使命を感じている。

この新しい大学創造の仕事を分担しようとする学生諸君！諸君の参加をわれわれは待っている。

京都精華大学の 理念と岡本清一

—— 岡本清一先生追悼特集号 ——

京都精華大学(京都精華短期大学)の初代学長をつとめられた岡本清一先生が2001年1月10日ご逝去されました。岡本先生の業績を振り返る中で、京都精華大学の更なる飛躍のために、いま一度京都精華大学の歴史と教育理念を確かめたいと思います。

岡本清一は京都精華大学に「自由自治」の旗を高く掲げた。

京都精華大学を支える教育理念の原点は、初代学長・岡本清一によって提示された。もちろんそれは、そのときどきを担うひとびとによって、新しい理解をくわえられ、内実を与えられてきたからこそ活きた教育活動となった。しかし、いま一度その原点を確認することはむだではない。京都精華大学の教育理念とされてきたものたちを単にスローガンに終わらせないために、岡本清一のことばをたどることは、現在の大学を検証し、未来へいっそうの飛躍を図る跳躍台となるだろう。



悠々館に刻まれた「自由自治」の文字

岡本清一と京都精華大学①

「自由自治」

「自由自治」は精華の代名詞だ。

京都精華大学といえば「自由自治」ということばを抜きにして考える事はできない。全ての活動の指針として、ことある毎に「自由自治」が語られてきた。このことばは京都精華大学にとって代名詞のような存在である。

京都精華短期大学の学長就任を引き受ける際に岡本が提示した「教育の基本方針に関する覚書」の中にも、「学内における学生の自由と自治は尊重され、その精神の涵養がはかられる」との一項がすえられ、開学時の大学案内でも「自由と自治の精神の波うつ新しい大学を、これから創造していこうとしているのである」と宣言されている。

岡本がこの新しい大学の基本理念として、あらゆる機会をとらえて、「自由自治」の精神を訴えつけたことがうかがえる。

そして、学生も教職員も、「自由自治」の大学の建設に取り組むとともに、「自由自治」の存在を確かなものとして体得してきた。

しかしもう一方で、「自由自治」ほど様々に解釈され、議論の対象になった言葉もないだろう。京都精華大学の歴史とは「自由自治」とは何かを追い求め続けてきた歴史でもある。

岡本清一と京都精華大学②

「国際主義」

京都精華大学は常に世界を見つめてきた。

「教育の基本方針に関する覚書」には、「わが京都精華短期大学における教育の一切は、新しい人類史に対して責任を負い、日本と世界に尽くそうとする人間の形成にささげられる」との一項がある。開学初年度のパンフレットにも、「自由自治」「人間形成」「凝集教育」と並んで「国際主義の教育」が掲げられている。

「国際主義」は短大の開学当初から実践的に取り組まれてきた。「朝鮮語」を第二外国語としてとり入れたのは、その端的な例。当時短期大学としては唯一であったばかりか、4年制でも外国語大学をのぞけば、きわめて希少だった。外国人教員の採用も着実に進められていた。

特に、89年の人文学部発足以降はより積極的に、「国際主義」にもとづく教育プログラムが開発されていく。

海外との提携大学も多数におよび、多くの学生が海外で学ぶプログラムに参加している。また在学学生全体に占める留学生の比率は全国でもトップクラスになりつつある。

「国際主義」は京都精華大学において着実に根付き、大学の貴重な財産になっている。

岡本清一と京都精華大学③

「人格的平等主義」

京都精華大学は新しい人間像を追求し続ける。

大学闘争が全国を席卷する時代に創立を迎えた京都精華短期大学は、旧弊な大学システムを克服しようとした。とりわけ教員—職員—学生という「身分制」の打破が重視された。

「一九六八年、この大学が設立されたとき、われわれ教職員と学生とは、いくつかの誓いを立てた。その第一は、自由自治主義の旗のもとに、人格的平等主義の研究教育集団としての大学をつくるということであった。したがって、たとえばもし、日本のどこかに、学生が教職員とは、別の食堂を利用しなければならないというような大学があるとすれば、それは最低の大学だと考える考え方が定着した。この人格的平等主義の実践は、人種的、民族的、社会的差別をみとめない思想を、学問、研究の出発点となしうることの保障であると考えられてきた」（1989年岡本清一「大学の志操」より）

この理念は、教職員年齢給一本化、教職員合同会議、そして学長選挙制度などのかたちで具体化されているといえる。

しかし、制度ばかりでなく、まさに日常的な教員と職員、そして学生との交流のなかに、この精神が息吹いていることは、この大学での時間を過ごした者は、誰もが感じるだろう。



岡本清一の略歴

- 1905年 4月26日 京都府北桑田郡宇津村(現・京北町)に生まれる。
- 1927年 4月同志社大学法学部法律学科入学
- 1930年 3月同志社大学法学部法律学科卒業
- 1930年 4月里見日本文化研究所助手
- 1931年 10月同上退職
- 1938年 4月外務省調査部嘱託
- 1943年 12月外務省退職
- 1946年 4月同志社大学学生主任
- 1947年 4月同志社大学法学部講師
- 1948年 3月同志社大学法学部教授
- 1952年 4月同志社大学学生部長
- 1953年 8月同志社大学学生部長退任
- 1957年 4月同志社大学法学部長
- 1958年 3月同上任期満了につき退任
- 1963年 9月 同志社大学学生部長
- 1964年 8月同上任期満了につき退任
- 1966年 1月同志社大学を退職
- 1968年 京都精華短期大学開学
- 1968年 4月京都精華短期大学教授
- 京都精華短期大学学長(～71年12月)
- 1979年 京都精華大学美術学部開設
- 1979年 1月京都精華大学短期大学教授
- 1989年 京都精華大学人文学部開設
- 1989年 4月京都精華大学人文学部教授
- 1990年 3月京都精華大学を退職
- 1990年 4月京都精華大学名誉教授
- 2001年 1月10日老衰のため死去。享年95歳

岡本清一の主要著書

- 『国体憲法学』国体科学社 1930年 8月
- 『船口萬寿伝』四季書房 1942年 3月
- 『新島襄』(銀の鈴文庫)広島図書 1948年 5月
- 『独裁と自由』創元社 1952年 12月
- 『ブルジョア・デモクラシーの論理』法律文化社 1954年 4月
- 『自由の問題』岩波書店 1959年 4月(太田雅夫さん作成のものを編集させて頂きました。)

岡本清一の著作『自由の問題』『新島襄』が復刊

追悼記念出版として、長らく絶版となり入手困難だった2冊の本が復刊される。岡本清一が現代を撃つ。

『自由の問題』

岩波書店 740円(税別) 発売中
(初版は1959年4月刊)

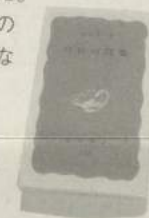
まさに「自由」こそ岡本清一の生涯の課題だった。「階級的搾取からの解放」という大文字に、すべての問題を従属させてしまう当時の風潮を真っ向から批判するため、自らの学問的思索の精華を傾注したのが『自由の問題』。

イデオロギーの呪縛から自由なこの労作は、体制的思考の限界を超えられなかった刊行当時の言論・思想界に強い衝撃を与えた。

東西の体制的対立にかわって、国家・民族・宗教などの問題について原理的に考えることが思想の切実な課題となっている冷戦終結後の現代世界。

そして、京都精華大学の原点を見つめる意味で。

人間の自由の問題を根源的かつ独創的に考察したこの業績に、今、改めて学ぶ意義は大きい。



『新島襄』

青山社 1500円(税別) 4月中旬発売予定
(初版は1948年5月広島図書刊)

『新島襄』の原本は、戦後間もなく原爆砂漠の中、子供たちのための教育雑誌『銀の鈴』を発行していた広島図書から『銀の鈴文庫』の一冊として出版された。その後、1952年同志社大学出版部から発行されていたが、改訂10版をもって絶版となっていた。

この著作は、岡本清一の戦後最初の作品となる。タイトルの通り、同志社の創始者である新島襄の伝記だ。子ども向けに書かれてはいるが、新島襄の生涯をたどることを通して岡本自身の思想が語られている。新しい日本の将来を担う若者に期待されたのは、信仰と愛の精神によって厳しく自己を律する生き方や、社会と人々に尽くそうとする志の大切さだった。

なお、今回は同志社大学出版部では削除された装丁・口絵・挿絵などを含めて復刻し、「新島襄略年譜」と「解説」を付し、さらに、付録として戦後間もなくの文章なども収録されている。

『岡本清一先生を偲ぶ会』を開催

岡本清一の業績と思想を語り合う集まりが4月末に開かれる。



岡本清一が死去し一年余り。この4月26日は、岡本の97回目の誕生日に当たる。これを機会に、「故・岡本清一先生を偲ぶ会」が4月27日に開催されることとなった。岡本と関わりのあった 方々の講演を中心に、その業績や思想、そして人柄を振り返る。京都精華大学の卒業生代表として沖和子さんが「思いやりと自由への道:岡本学長を偲ぶ」という演題で、京都精華大学の学長、理事長をつとめられた笠原芳光さんが「自由自治は幻想か」という演題で話される。また、同志社時代の教え子、太田雅夫さん(元桃山学院学院短期大学学長)は「岡本清一先生と『新島襄』」について、同志社大学名誉教授の井ヶ田良治さんは「50年代の同志社と岡本清一先生」についての講演を行う。ご遺族や中尾ハジメ京都精華大学学長の挨拶もある。なお、追悼記念出版として復刊される『新島襄』(『銀の鈴文庫』広島図書 1948年5月刊)、『自由の問題』(『岩波新書』岩波書店 1959年4月刊)の2冊の先生の著書が、当日の出席者に配布される予定。

教育の基本方針に関する覚書

京都精華大学の前身である京都精華短期大学の設立準備委員長(学長予定者)就任の交渉を受けた岡本清一は「教育の基本方針に関する覚書」を理事会に提示して賛同を得た。京都精華大学の教育理念の原点はここに存在する。

1. 京都精華短期大学は、人間を尊重し、人間を大切にすることを、その教育の基本理念とする。この理念は日本国憲法および教育基本法を貫き、世界人権宣言の背骨をなすものである。
2. 京都精華短期大学は特定の宗教による教育を行わない。しかし諸宗教の求めてきた真理と、人間に対する誠実と愛の精神は、これを尊重する。
3. 学生に対しては、師を敬うことが教えられる。師を敬うことなくして、人格的感化と学問的指導を受けることはできないからである。そして敬師の教育を通じて、父母と隣人に対する敬愛の心を養う。
4. 教員の学生に対する愛情責任は、親の子に対するそれが無限であるように、無限でなければならない。職員もまた教員に準じて教室外教育の一斑の責任を負う。
5. 学内における学生の自由と自治は尊重され、その精神の涵養がはかられる。従って学生は、学内の秩序と環境の整頓に対して責任を負わなければならない。
6. 礼と言葉の紊れが、新しい時代に向かって正され、品位のない態度と言葉とは、学園から除かれなければならない。
7. かくしてわが京都精華短期大学における教育の一切は、新しい人類史の展開に対して責任を負い、日本と世界に尽くそうとする人間の形成にささげられる。

新任 / 退任の先生方

春を迎えて、新しく京都精華大学にスタッフが加わる。またこれまで大学の発展に貢献されてきた方々も、定年などで退職される。

2002年度から着任される方は4名の教員。

芸術学部には、島本浣先生、小松敏弘先生、小川聡先生の3名、人文学部には春山文枝先生。

島本浣先生は『西洋美術史』『現代美術論』などを担当、小松敏弘先生は洋画分野、小川聡先生はストーリーマンガ・コースで実技を担当する。春山文枝先生は環境社会学科の所属で、『環境NGO論』『南北問題』などを担当する。

一方、2001年度いっぱいをもって退任されるのは3名の方。

芸術学部の中原佑介先生、人文学部の吉村昭市先生、事務局の松浦逸郎さん。

尚、吉村昭市先生は特任教員として、松浦逸郎さんは嘱託職員として、新年度からも大学の活動に参加いただくこととなっている。

また、中原佑介先生には名誉教授の称号が授与される。

2002年度公開講座のお知らせ

斬新な人選と企画で毎回話題を呼ぶ京都精華大学の公開講座。本年度前期の企画が決まりました。

開学以来続く公開講演会「アセンブリーアワー講演会」は、芸術・文化・社会のさまざまなジャンルにおける第一人者を招き、時代の核心に迫るテーマで話を聞く。本年度前期は以下の通り。

4月25日 梨木香歩（小説家）「裏庭の周辺を歩く」 / 5月9日 大竹伸朗（画家）「自分をかり立てるもの」 / 5月30日 辻信一（「ナメケモノ倶楽部」世話人）「エコとエゴをつなぐースローという思想ー」 / 6月20日 大島早紀子（H・アール・カオス主宰）「時代とむきあう身体」 / 6月27日 後藤繁雄（編集者/クリエイティブディレクター）「編集の昨日・今日・明日」（いずれも14:40~16:10 申込不要/無料）。

また、ワークショップを中心とした社会人向け連続講座「GARDEN」の前期も、現在受講生を募集中。

文学表現講座、写真表現講座、アートマネジメント講座、音楽表現講座、宗教論講座など、多彩な講座を準備している。いずれも有料で申込が必要。

このふたつの講座については文化情報課（TEL:075-702-5343）までお問合せを。

AVセンター主催の「マルチメディア講演会」は現在、新谷キヨシ氏（作曲家・プレイヤー）+小松正史（本学教員）「原風景、音の交差点」4月23日17:00~18:30 / 高橋悠治氏（作曲家・プレイヤー）他6月14日16:30~18:00が決定している。問合せはAVセンター（TEL:075-702-5140）。

施設整備および教育研究事業充実に関する募金のお願い

京都精華大学の施設の充実、教育・研究の発展のためのご寄付を、教職員、卒業生、保護者をはじめ、広く社会各方面にお願いをいたしております。ご寄付は任意でございますが、何卒本学の教育理念のために多くのお力を献じていただきますようお願い申し上げます。

1. 寄付金募集目的……………施設整備および教育研究事業の充実
2. 寄付金募集期間……………2000年3月1日から5年間
3. 寄付金募集目標額……………1億円（2002年度分）
4. 寄付金申込金額（任意）…一口 5万円
5. 免税措置について……………この寄付金については、文部科学省から本学が「特定公益増進法人であることの証明書」の交付を受けていますので、個人または法人の所得から税金控除を受けられます。

趣旨にご賛同いただき、ご協力いただけます場合は、まことにお手数ですが、下記までご連絡くださいますようお願いいたします。納入方法などを記載した「募金要項」「申込用紙」などをお送りさせていただきます。

学校法人木野学園 京都精華大学 企画室

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137 TEL.075-702-5201 FAX.075-721-9019

2001年度一般入試における入試過誤について

2001年度の一般入学試験において、あってはならない出題および採点のミスがありました。

受験生の問い合わせから発覚した後、直ちに学長を中心とした調査委員会および対策室を設置し、事実関係の調査を行うとともに、厳正な再採点を実施いたしました。その結果、芸術学部一般1期入学試験において本来合格であるべき4名の方が不合格となっていたことが判明し、新たに合格とさせていただきます。

多大なご迷惑をおかけした受験生ご本人、ご家族はもとより、本学関係者のみなさんに心よりお詫び申し上げます。またこの事態により、本学の入学試験に対する社会の信頼を大きく損ねたことにつきまして、深く陳謝いたします。

今後は、入学試験の出題体制および実施体制を抜本的に見直し、社会的信用の想起回復に全力を挙げる所存です。

本学関係の皆様方に、特段のご理解とご協力を心からお願いする次第です。

京都精華大学

木野通信特別号

2002年4月1日発行

入試課 〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137 ☎075-702-5100 受験生 フリーダイヤル 0120-075017
e-mail nyushi@kyoto-seika.ac.jp ホームページ http://www.kyoto-seika.ac.jp